

## パブリックコメントの意見概要及び市の考え方

No.	頁	計画案の記述	ご意見の概要	ご意見に対する市の考え方	修正の有無
1	1	豊かな「子どもの読書環境」づくりのために	本を手渡す人の大切さをアピールできるよう、子どもが読書習慣を身に付けるために欠かせない3つの要素の順番を修正 「①本 ②場所と時間 ③人」 →「①本 ②人 ③場所と時間」	3つの要素のうち、物理的な条件を先に示し、3番目に「人」を示すことによって「人」の重要性を強調できると考え、案のとおりとします。	なし
			子どもが読書習慣を身に付けるために欠かせない3つの要素を修正 「③人 子どもに本を手渡したり」 →「③人 子どもに本の面白さを伝え」	本計画では、本を手渡す場面として、学校の授業等で図書館を活用することも含んでいるため、ここでは「本を手渡したり」が適当と考え、案のとおりとします。	なし
3	3	第1章4第一次計画の取組と成果・課題 (3) 数値目標の達成状況	数値目標②市立図書館における小・中学生への貸出冊数については、冊数にこだわり、頁数の少ない本を借りるだけでは問題がある。貸出冊数ではなく頁数を把握すべき。	貸出冊数は図書館利用の実態を示すものとして広く用いられるものですが、ご指摘のように限界もあり、一定の目安として設定しています。市立図書館では、幅広く豊かな本との出会いが生まれるよう取り組んでいきます。	なし
4	6	第2章1家庭 第二次・家庭の取組 ②読み聞かせの実施	保護者の中には「読み聞かせ」を難しいことと捉える人も多いので、次のように修正 「乳幼児期から絵本の読み聞かせを行うことが望まれます」 →「乳幼児期から絵本を読んであげることが望まれます」	ご意見のとおり修正します。	あり
5	7	第2章1家庭 第二次・市の取組 ①保護者への働きかけの推進	新潟市では1歳でブックスタートを行っているが、ブックスタート前後や出産前の保護者に対する働きかけをぜひ進めてほしい。	さまざまな場面を捉えて保護者への働きかけに取り組んでいきます。	なし
6	7		耳ざわりも悪く聞いただけでは意味が分からないため、次のように修正 「うちどく(家読)」→「家での読書」	うちどく(家読)は、学校で広く取り組まれている「朝の読書」が「あさどく(朝読)」として定着していることから、その家庭版として全国に広がっている運動です。図書館、学校、園などをとおして家庭に広く呼びかけるには、端的な表現が適していると考えますので、案のとおりとします。	なし

No.	頁	計画案の記述	ご意見の概要	ご意見に対する市の考え方	修正の有無
7	7	第2章1家庭 第二次・市の取組 ①保護者への働きかけの推進	ゲームや携帯、テレビが児童生徒の世界に大きな要素を占め、読書の推進に壁となっているのではないかと考える。	電子メディアとの接し方についても関心を持ってもらうよう、保護者に働きかけを行っていきます。	なし
8	7	第2章1家庭 第二次・市の取組 ②ブックスタート事業の充実	1歳誕生歯科健診未受診者に向けたブックスタートの取組を関係課・機関で検討してほしい。	健診未受診者のために行っている図書館でのブックスタートの実施日・実施館の拡大に努めるなど、取り組んでいきます。	なし
9	7	第2章1家庭 第二次・市の取組 ②ブックスタート事業の充実	現在ブックスタートは1歳誕生歯科健診の会場で実施しているが、4か月の股関節検診での実施を検討してほしい。現状では次の問題点がある。・フッ素塗布後で泣いている子どもが多い・保護者の絵本に対する理解度に開きがある。・保護者への働きかけは3・4か月の方がよい。図書館利用にもつながりやすい。	ブックスタート開始時に、会場・内容・実施時間等のさまざまな条件を総合的に判断し、1歳誕生歯科健診での実施としました。ブックスタート前後の働きかけを含めて、ブックスタートの趣旨が効果的に伝わるよう、取り組んでいきます。	なし
10	7		ブックスタートボランティアとして活動する中でブックスタートの趣旨が保護者に伝わっているという実感がある。今後もブックスタートは続けてほしい。	ブックスタートは本計画の中で、重要な事業の1つと考えています。今後も継続し、より充実した事業となるよう努めます。	なし
11	7		ブックスタートの現場で、ボランティア数が不足していると感じるときがある。余裕を持って対応できるよう十分な人数を配置してほしい。	ブックスタートの実施に問題がないよう、ボランティアの活動人数を確保します。	なし
12	7		ブックスタートボランティアの養成、スキルアップのための講座などを開催してほしい。	ご意見の趣旨を生かし、ブックスタートボランティアの養成・支援について、次のとおり追記します。 「また、ブックスタートをより充実させるため、今後も継続してボランティア育成や活動の支援に努めます。」	あり
13	7		ブックスタートボランティアの意見をよく聞いて取組を進めてほしい。	ボランティアとの連携を十分に図りながら進めていきます。	なし

No.	頁	計画案の記述	ご意見の概要	ご意見に対する市の考え方	修正の有無
14	7	第2章1家庭 第二次・市の取組 ③子育て世代が利用しやすい図書館づくり	「赤ちゃんタイム」実施館を拡大してほしい。	子育て世代が利用しやすい図書館づくりを目指し、拡大に向けて取り組んでいきます。	なし
15	7		子どもが少しうるさくしても、大目に見てくれる寛容さがある図書館が利用しやすい。子どもだけの図書館があるとよい。	子どもだけの図書館を設置するのは、すぐには難しいと考えます。今ある図書館の中で、親子が利用しやすい環境を作るよう努めます。	なし
16	7		小さい子どもが本だけに集中するのは難しいので、質のよいおもちゃなどを置いてもいいのではないかと。ほんぽーとのようにトイレが近くにあるとよい。	子どもたちにとって利用しやすい環境になるよう工夫していきます。	なし
17	9	第2章2保育園・幼稚園 第一次 ①保育園・幼稚園への働きかけ	園での読書活動を推進するためには、園長先生の理解が不可欠であり、市立保育園・幼稚園の園長会や私立幼稚園協会を通じて情報提供を継続してほしい。	ご意見の趣旨を踏まえ、本計画に記載のとおり、情報提供に努めていきます。	なし
18	9	第2章2保育園・幼稚園 第一次 ②保育園・幼稚園の蔵書の充実	「地域こども絵本ふれあい事業」で配付された絵本はどのように活用されているのか。貸出数や園内の設置場所などが知りたい。	配付した絵本は、保護者に広く貸出を行っているほか、園での読み聞かせや行事に関係する絵本の紹介などで活用しています。配付数は施設の規模、種別に応じて100冊から280冊です。また、絵本は廊下や玄関など、保護者の目に留まる場所に設置し、利用しやすいよう努めています。	なし
19	9		「地域こども絵本ふれあい事業」による配付絵本は、携帯電話での貸出のみで、不慣れな人には使い辛かった。子どもや大人が借りやすい方法で実施してほしい。	現在は、ノートでの貸出も併用しています。	なし
20	10	第2章2保育園・幼稚園 第二次・市の取組 ①保育園・幼稚園への支援	ボランティアの導入にあたっては、ボランティアと保育園・幼稚園の双方のニーズを調整して進めてほしい。	双方のニーズを把握して、連携・協力が進むよう支援していきます。	なし

No.	頁	計画案の記述	ご意見の概要	ご意見に対する市の考え方	修正の有無
21	10	第2章2保育園・幼稚園 第二次・市の取組 ②保育園・幼稚園における読書環境の整備	「地域こども絵本ふれあい事業」による配付絵本が活用されるよう働きかけを行ってほしい。 (2件)	本計画の中で、活用を働きかけていきます。	なし
22	10		団体貸出について積極的にアピールし、また園への搬送車を運行してほしい。	団体貸出の周知については、「4地域」(P23)に記載しています。園への搬送車の運行については、団体貸出の利用状況を見ながら、検討していきます。	なし
23	10		市が推薦する絵本リストやパンフレット、図書館だよりなどの設置や配布による情報提供をしてほしい。	おすすめの絵本リストを各園に配布しています。今後も、園に対して、保護者への情報提供を働きかけていきます。	なし
24	10	第2章2保育園・幼稚園 第二次・市の取組 ③職員研修の実施	本が好きになり、本に精通し、子どもと本を結び付けられる職員を育成する研修を望む。	ご提案の趣旨を生かすよう、職員研修の内容を検討していきます。	なし
25	16	第2章3学校 第二次・市の取組 ①学校図書館活用の拡大	学校図書館活用推進校の指定に当たっては、十分な予算配当と学校図書館支援センターの細やかな支援が必要。	学校図書館活用推進校の指定にあたり、必要な取組を今後検討していきます。	なし
26	16		学校図書館活用推進校の指定に伴い、学校図書館活用実践事例のまとめや、ブックリスト作りを行ってほしい。	学校図書館を活用した授業実践事例をまとめ、必要なブックリストと併せて広く紹介していくことは大事なことであり、本計画の中で取り組みます。	なし
27	16	第2章3学校 第二次・市の取組 ②教職員研修の充実	教員と学校司書が仕事分担を明確にしながらも、協働の取組ができるような配慮がほしい。	学校図書館の活用を進めるためには、教員と学校司書の積極的な連携と、それぞれの役割に合わせた研修が必要と考え、研修の充実を図ります。	なし
28	16		読書活動の大切さを、管理職はじめ教員に研修を通して根気よく働きかける必要がある。	管理職を対象とした読書活動推進についての研修をはじめ、教職員に向けた研修、教員と学校司書との連携・協働するための研修などを充実させていきます。	なし

No.	頁	計画案の記述	ご意見の概要	ご意見に対する市の考え方	修正の有無
29	16	第2章3学校 第二次・市の取組 ②教職員研修の充実	「読書センター」「学習・情報センター」として学校図書館が役割を果たせるようにするためには、学校司書に任せるのではなく、教員に対する授業の指導法についての研修が必要。具体的には、①教科学習で使える本についての講座、②ノンフィクションの本の講座、③フィクションの本の講座、④読書指導・読み聞かせの講座、⑤教員が使用できる学校図書館の作り方の講座	学校図書館の活用を進めるために、教員に対する研修の充実を図ります。	なし
30	16		子どもが読みたくなるような新鮮な本が並ぶ書架にするために、学校司書の資質向上を望む。	学校司書実務研修会や教員と学校司書との連携充実研修を通し、学校司書のスキルアップが図れるよう研修の充実に努めます。あわせて学校図書館支援センターによる学校訪問等を通して支援していきます。	なし
31	16		学校図書館活用を進めていくためには、管理職への働きかけが最も効果的。また、研修内容を工夫し、具体的に繰り返し研修を実施することが必要。	管理職研修や教職員研修、教員と学校司書が連携・協働するための研修等を充実させていきます。	なし
32	16	第2章3学校 第二次・市の取組 ③特別支援学校の読書環境の整備	ボランティアで特別支援学校で読み聞かせをした経験から、どんな子どもでも絵本が好きで楽しむということを目にした。ハンディキャップのある子どもたちに、それぞれに合う形で本を楽しむ環境をつくってほしい。	特別支援学校における読書環境整備を進め、ハンディキャップの状態やそれぞれの特性に合わせた読書活動ができるよう支援していきます。	なし
33	16	第2章3学校 第二次・市の取組 ④学校図書館の充実	学校司書の配置率 100%はすばらしいが、人材確保のためにも、学校司書は年間雇用すべき。	人材確保の観点では、通年・学期毎の雇用形態にそれぞれのニーズがあると考えます。通年の雇用形態での新規採用も継続して行っています。	なし

No.	頁	計画案の記述	ご意見の概要	ご意見に対する市の考え方	修正の有無
34	16	第2章3学校 第二次・市の取組 ④学校図書館の充実	学校図書館支援センターによる支援が熱心に行われているが、これは学校現場を経験している正規職員だからできる支援である。予算面の困難さはあるだろうが、今後の子どもの読書活動を考えたとき、正規職員が少しずつでも増えることを望みたい。	定員適正化の観点から正規職員の増員は難しいですが、よりよい支援を行っていきけるよう、適正な人員配置・体制づくりをしていきます。	なし
			教員と司書の研修に立ち会った経験から、学校司書に待遇以上の重い責任を負わせ、教員は本来の任務を果たさず、学校司書に任せ切っていると感じている。学校司書の待遇の改善(普通の事務職員並みの勤務時間とそれに見合った給与の支払い)をお願いしたい。	管理職研修や教職員研修、教員と学校司書が連携・協働するための研修等を通じ、学校全体で図書館を運営する意識を高めることにより、学校司書と学校図書館の活用を支援していきます。また、学校司書の待遇については、職種間のバランス及び他都市の状況を考慮し、適正な水準の維持に努めます。	なし
			学校図書館関係課の連携を更に発展させてほしい。	効果的な学校図書館運営ができるよう、学校図書館関係課・機関がさらに連携を深め、教育委員会全体で学校図書館を支援します。	なし
			学校図書館資料(蔵書)整備は、量だけではなく質的向上を望む。	学校図書館は蔵書の更新を進め、新鮮で魅力的な幅広い蔵書の収集に努め、「読書センター」「学習・情報センター」としての活用が進むよう整備します。	なし
38	17	第2章3学校 第二次・市の取組 ⑤学校図書館支援センターによる支援	現在4つの中心図書館に設置されている学校図書館支援センターを、各区に設置すべき。	学校図書館支援センター運営検討委員会により、学校現場のニーズに合わせたよりよい支援ができるよう、支援の内容や体制の検討を続けていきます。	なし
39	17	第2章3学校 第二次・市の取組 ⑥地域との連携	学校のニーズに応えられるボランティアの養成が必要である。その際、「学校図書館ボランティアの手引き」がほしい。	地域教育コーディネーターと連携し、学校図書館ボランティアを対象とした研修会の開催等、引き続き支援します。ご意見は本計画の中で検討します。	なし

No.	頁	計画案の記述	ご意見の概要	ご意見に対する市の考え方	修正の有無
40	17	第2章3学校 第二次・市の取組 ⑥地域との連携	学校の長期休業中は毎日でも学校図書館を地域に開放してほしい。	地域のニーズに合わせた開放ができるよう、環境整備に努めます。	なし
41	17	第2章3学校 第二次・市の取組	図書館や書店に行く習慣がない生徒のために、高校にも学級文庫を設置してはどうか。	高校生の読書活動を推進するためには、どのような取組が有効かを今後検討していきます。	なし
42	22	第2章4地域 4-1図書館・第一次 ④ティーンズ世代への取組	(独)国立青少年教育振興機構の調査結果によると、中・高校生は図書館をあまり利用していないことが伺える。年齢の高い子ども(中学生・高校生、場合によっては小学生)への働きかけが重要である。	本計画の中で、中学・高校の学校図書館との連携を進め、さらに支援を進めるよう取り組んでいきます。	なし
43	22		中学校・高等学校等の職場体験学習を積極的に受け入れるなど、一つひとつの手立てが大切である。	「④保育園・幼稚園、学校、地域子育て支援センター、放課後児童クラブなどへの支援」(p23～24)に記載したとおり、取り組んでいきます。	なし
44	23	第2章4地域 4-1図書館・第二次 ①図書館の充実	図書館が歩いてすぐに通える近さにあれば利用しやすい。地区図書館に借りたい絵本がないなど、未だ不便だ。地区図書館の充実(開館日・開館時間・蔵書)を望む。	身近な地区図書館・地区図書室の充実に努めていきます。	なし
45	23		「子育て応援コーナー」や「赤ちゃんタイム」等、物理的な面は改善されたが、児童書に造詣のある司書を育成・配置する人的充実に希望する。	ご意見の趣旨を生かし、本文を次のとおり追加し修正します。「児童書や子どもについて深く学び、子どもの読書活動を支援する専任司書を今後も継続して配置していきます。」	あり
46	24	第2章4地域 4-1図書館・第二次 ⑤ボランティアとの連携・支援	読み聞かせボランティアに対して、司書が指導する機会を設けたり、スキルアップ講座を実施するなどしてほしい。また、情報提供などの交流をとおして、ボランティアと司書との連携を深めてほしい。(4件)	本計画の中で、さらに連携を深め、支援を進めるよう取り組んでいきます。	なし

No.	頁	計画案の記述	ご意見の概要	ご意見に対する市の考え方	修正の有無
47	24	第2章4地域 4-1図書館・第二次 ⑤ボランティアとの 連携・支援	ボランティアの研修に「ステップアップ」という言葉は「昇進」という意味があることから不適當。「スキルアップ(技術の向上)」が適當である。	「ステップアップのための講座」は、ボランティア活動の中で必要な幅広い技術や心構えなどをさらに身に付けていくために開催するものであり、案のとおりとします。	なし
48	26	第2章4地域 4-2公民館・子育て支援センター等 第一次 ①事業の実施	現行計画で実施した事業が、市民や関係者からも見えるようにすることが大切である。	今後とも子どもの読書活動推進に関する事業や大人への働きかけについて広報していきます。	なし
49	29	第3章1 数値目標	数値目標の根拠は何か。	現状の数値を基に、5年間の取組により達成を目指せる数値としました。	なし
50	30	第3章3推進体制 子ども読書活動推進計画庁内推進会議の開催	子どもの読書の関係者が集まり、計画の周知や共通理解を図ることが大事	会議開催のほか、日常的に事業を通して情報を共有し、共通理解を図りながら取組を進めていきます。	なし

※ 参考意見

No.	頁	計画案の記述	ご意見の概要
1			「第二次新潟市子ども読書活動推進計画(案)」に賛成する。(3件)
2			第一次計画期間中の取組を評価する。
3		第2章1家庭 第一次 ②ブックスタート事業の実施	ブックスタート事業を評価する。(2件)
4	5		ブックスタートで、図書館での読み聞かせについて伝えると興味を持ってくれる方が多くうれしい。また、絵本の読み聞かせボランティアをやっていて、小さい子どもたちが熱心に聞いてくれている様子を見ると、よい絵本を紹介したいものだとつくづく思う。
5	9	第2章2保育園・幼稚園 第一次 ②保育園・幼稚園の蔵書の充実	「地域こども絵本ふれあい事業」で保育所の蔵書が増え、絵本を借りて読む習慣がついた。孫との至福の時間になり感謝している。
6	11	第2章3学校 第一次 ②読書環境の整備	学校司書配置率、学校図書館図書標準達成率、蔵書管理システム導入率の達成を評価する。



No.	頁	計画案の記述	ご意見の概要
7	13	第2章3学校 第一次 ②読書環境の整備	P13 上部「児童生徒の自発的、主体的な学習活動を支援し、情報活用能力を育成するため、学校図書館が「読書センター」としての役割とともに、「学習・情報センター」としての役割を果たし、全ての教科等の授業における学校図書館の活用を進めるとともに、校種を超えた指導体系と連携が必要です。」の文面に全面的に賛同する。
8	16	第2章3学校 第二次・市の取組 ②教職員研修の充実	管理職・教員・学校司書の研修は大いに進めてほしい。
9	16	第2章3学校 第二次・市の取組 ③特別支援学校の 読書環境の整備	今回、特別支援学校における記述が盛り込まれたのは、進歩であり重要なことであると支持したいと思う。
10	16	第2章3学校 第二次・市の取組 ④学校図書館の充実	「子どもたちが本に親しみやすい「心の居場所」としての環境づくりを進めます。」ということを評価する。
11	23	第2章4地域 4-1図書館・第一次 ⑥読み聞かせ等ボ ランティアとの連 携・支援	読み聞かせボランティアを始めて日が浅いが、図書館職員が資料探しを手伝ってくれるのでありがたい。
12	27	第2章4地域 4-2公民館・子育て 支援センター等 第二次 【主な施策と具 体的な取組】	子どもの読書活動を支援していくために、あらゆる手立てを尽くす必要がある。そして、大人たちが本気になることが大切。